

財団法人 8020 推進財団

平成19年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名 : 「住民から住民へ」の連携を重視した新しい健康づくり事業  
～口腔力と生活力の向上をめざして～

2. 申請者名 : 鹿児島県歯科医師会 会長 四元 貢

3. 実施組織 : 鹿児島県歯科医師会、鹿児島県曾於郡歯科医師会、鹿児島県曾於郡大崎町、(財)ライオン歯科衛生研究所、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔保健推進学分野

4. 事業の概要 :

鹿児島県大崎町において、住民が住民の家庭を訪問して実施・調査を行う、住民同士の連携による高齢者の口腔力(口腔機能)の向上を目的とした保健事業を実施した。まず、核となる住民(推進住民)を対象に、(財)ライオン歯科衛生研究所が試作した口腔の健康に関する質問紙調査と口腔力に関する検査および口腔力向上プログラムの体験学習を実施した。続いて、推進住民が各地域で家庭訪問して高齢者の口腔力を調査・検査し、口腔機能を高める活動を支援した。3ヶ月後に、同様の質問紙調査と口腔力に関する検査を行い評価した。最後に、フェスティバルを開催して結果報告と表彰を行い、本事業の地域への定着を図った。

5. 事業の内容 :

[対象者]

鹿児島県曾於郡大崎町の住民 104 人。

[方法]

最初に、推進住民を中心とした体験型の学習会を開催した。この際、各自の口腔力と生活力の課題を明確化し、その解決法の検討を行いながら、主体的に改善できる支援方法まで検討した。質問紙調査を実施後、口腔機能検査を口腔の外(周り)、口腔の入り口(咀嚼機能)、口腔の奥(嚥下機能)、口腔清掃度の4つに分類してアセスメントを行なった。その後、アセスメント結果に基づく家庭用のプログラムを提案・説明した。さらに期間中は、推進住民が中心となり家庭訪問を通して高齢者を支援した。3ヶ月後に同様の調査を行い評価した。最後に、住民主体のフェスティバル「大崎町 口腔力 こんなに高まったよ フェスティバル」を開催し、地域住民への事業報告と口腔力の高くなった者や口腔力向上プログラムを励行した者などを表彰して、本事業の地域への定着をはかった。

[結果]

- 1) 口腔機能向上プログラムを3ヶ月間、家庭で毎日実施した者は35.6%、週数回実施した者は13.5%、最初だけ実施した者は28.8%、ほとんど実施しなかった者は22.1%であった。
- 2) 口腔機能向上プログラムを実施して変化したことは、「つばが出やすくなった」19.2%、「食事が飲み込みやすくなった」15.4%、「食べやすくなった」13.5%(複数回答可)などであった。
- 3) 口腔機能向上プログラム実施3ヵ月後の口腔機能検査では、咀嚼力判定ガムが有意に改善し( $p < 0.01$ )、オーラルディアドコキネシス「ka音」と口臭は改善の傾向にあった( $p = 0.061$  および  $p = 0.061$ )。総合的な機能としての口腔力は有意に改善が認められた( $p < 0.01$ )。  
以上の結果から本事業の有効性が確認されたが、さらに対象人数の増加やプログラムの充実などの課題への対応が必要と考えられた。

6. 実施後の評価(今後の課題) :

- 1) 住民が主体的に活動できる風土の醸成と、歯科医師会、行政、研究機関の効果的な支援のあり方を考案する。
- 2) 住民が参加しやすい、実施しやすい活動内容に改良していく。
- 3) 本事業の有効性については、他の地域(市町村)などにおいても引き続き検証していく必要がある。